

- 1 陽炎也立入禁止区域前――
- 2 なくなった家を見ている子猫かな――
- 3 しゃぼんだま瓦礫の残る空地にて――
- 4 喜雨降るや除染作業の進まぬ田――
- 5 蟬しぐれここはノンフィクションだから――
- 6 六年の日焼けをしているドラム缶――
- 7 水星もひまわり畑みつめてた――
- 8 隠したいものの隠せず螢の日――
- 9 流された駅を透かして秋の海――
- 10 慰霊碑の白百合枯れたまんまなの――
- 11 犠牲者の名前照らして大西日――
- 12 ぐにやぐにやの茶色のパトカー枯葉落ち――
- 13 虫の音に「あの日」感じているところ――
- 14 地震二日春泥に残りし恐怖――
- 15 春雨に兄は電池を買いに行き――
- 16 ふらここもかげもなくなったなくなった――
- 17 かの人もかの人もまたマスクして――
- 18 たんぽぽの根はマントルを掴んでる――
- 19 不安さえ隠しこんでる春の闇――
- 20 蛇苺指切りげんまんまたいつか――
- 21 春雲も詰めて避難区域去る――
- 22 部屋の窓拭いてもふいても花曇――
- 23 五月闇だまし絵みたいな森に行く――
- 24 草いきれ君と僕との秘密基地――
- 25 蜘蛛の糸絆、絆のコマーシャル――

- 26 七夕や行くあてはどこにもなくて――
- 27 バルコニー誰かに祈りを捧げては――
- 28 白雨降る黒い感情流したい――
- 29 炭酸の抜けた炭酸水の夏――
- 30 微塵雨無声映画のナレーション――
- 31 鈴虫やひとのひとりもない町――
- 32 廃校と沈んでいったあの無月――
- 33 原発を隠してすすき原は伸び――
- 34 フクシマの桃よ心の底苦く――
- 35 山百合や除染した土捨てる場所――
- 36 雁とんで孤独になっているところ――
- 37 名月が出口だったらいいなとか――
- 38 あきつ飛ぶ別れるために絡み合う――
- 39 つんとしたマッキー匂い新学期――
- 40 しゃぼん玉進路希望も透明で――
- 41 陽炎の中であなたがわらってた――
- 42 髪洗ふ不安という名のシャンプーで――
- 43 夏の大三角のS.H.求めて――
- 44 机上論ばかりつぶやく夏休み――
- 45 日焼けした♫不定詞のページかな――
- 46 夏季補習ねじれの位置の君と僕――
- 47 夏闇に四角い光吸い込まれ――
- 48 もうトマト代わりに食べてくれないの？――
- 49 道端のマーガレットと一年生――
- 50 大西日「進路」の二文字燃やしたい――

- 51 闇螢白々しい嘘をついた――
- 52 翺雲泡になって消えちやいたい――
- 53 なんとなく今日も過ごして癩祭忌――
- 54 嫌いにもなれずにラ・フランスタルト――
- 55 夜濯やこびりついてる自己嫌悪――
- 56 夕立や机に忘れた英和辞書――
- 57 噴水の浮力使って宇宙の旅――
- 58 手袋の分の隙間も嫌だから――
- 59 進学の話みかんの筋を取りつつ――
- 60 きつつきの音に合わせて英単語――
- 61 時差ボケでボストンの土地雪が降る――
- 62 画用紙の青がはみ出し冬の海――
- 63 初霜や私は海のもくずほど――
- 64 マンホールさえも聖誕祭を告げ――
- 65 Please の人もマフラーつけていて――
- 66 寒椿つぶせぬ小指の血豆――
- 67 春の土赤レンガのすき間すき間――
- 68 アネモネの種買ひボストン美術館――
- 69 朝寝坊シリアルはカラフルすぎて――
- 70 おはようと Good Night に去る燕――
- 71 夕焼けも眺めて自由の女神かな――
- 72 白鳥座地下鉄の路線図描き――
- 73 押し入れのスーツケースに春惜しむ――
- 74 全音符分の息吸い大試験――
- 75 盗み見た君の背中その窪み――

- 76 夜の秋送信ボタンの宙を舞う――
- 77 この暑さダリの絵画を思い出す――
- 78 毒キノコ盛ってもいいよあなたなら――
- 79 秋闇や微生物さえいない海――
- 80 不知火の静かな青よ鳥渡る――
- 81 寒卵こんな現実抜け出そう――
- 82 水銀の埋められし土地竹の春――
- 83 水俣とふくしま結ぶ銀漢――
- 84 怖いのは私たちかも秋桜――
- 85 来る人も来ぬ人もいて秋祭り――
- 86 秋夕焼角を曲がってみても道――
- 87 初紅葉ピリオドはなかったように――
- 88 春雨や私の肩は濡れたまま――
- 89 「さようなら」言えずに残るラムネ瓶――
- 90 本当も嘘もなんでもよくて夏――
- 91 袋へと除染した土霧深し――
- 92 滴りてしたたりてなほしたたりて――
- 93 待宵や黄身のくずれた目玉焼――
- 94 十六夜やなくなつてから気づくこと――
- 95 天高し「ここまで津波は来ました」――
- 96 蟻よりもちっぽけなものにおびえてた――
- 97 フクシマと呼ばれそれでも桃が好き――
- 98 胡桃割る悲劇のヒロインはやめて――
- 99 野分立つわたしはここで生きますよ――
- 100 “解なし”の解を探してヨット乗る――